

芸術dance ローザス

「ファーズ」「時の渦」

振付:アンヌ・テレサ・ドゥ・ケースマイケル

覚醒する視覚と聴覚—— ローザスにおける 動きと音楽

ベルギーに拠点を置く

ダンスカンパニー「ローザス」。

その創設者である振付家

アンヌ・テレサ・ドゥ・ケースマイケルは

今もダンスシーンの先端を走り続けている。

ダンスシーンの先端を走り続ける振付家

1982年、若干22歳だったアンヌ・テレサ・ドゥ・ケースマイケルはデビュー作『ファーズ』によって、当時全く新しい身体表現として生まれつつあったコンテンポラリーダンスの世界の先端に躍り出た。当時ベルギーでは、“フランドル・ニューウェーブ”と呼ばれたヤン・ファープルやヤン・ロワース、ヴィム・ヴァンデケイヴスなどの気鋭の若手芸術家が台頭し、世界中から注目され始めていた。ケースマイケルはその潮流を牽引した人物として筆頭に上げられる。彼女が1983年に創設したカンパニー「ローザス」は、1992年から2007年までベルギー王立モネ劇場のレジデンス・カンパニーとして活動を続け、今やベルギー国内のみならず、世界中からオファーを受けるトップ・カンパニーとなった。また1995年には自身が監督を務める舞踊学校P.A.R.T.S (Performing Arts Research Training Studios)を設立し、世界中から集まった若手ダンサーがここから巣立っている。ケースマイケルが現代のダンスシーンやカルチャー全般に与えている影響は計り知れない。

ブリュッセルとニューヨークで育まれた感性

ケースマイケルは、どんな環境で舞踊家として素養を身につけてきたのか、その経歴を振り返ってみたい。ケースマイケルは18歳の時、振付家モーリス・ベジャールがユネスコやベルギー政府の支援を受けてブリュッセルに開設した舞踊学校ムードラに入学した。当時ムードラのオーディションは世界各国で行われており、同窓生の中には後に「ローザス」を共に結成することになる池田扶美代もいた。ムードラの教育は、クラシック・バレエだけでなく、インド



アンヌ・テレサ・ドゥ・ケースマイケル

©Hugo Glendinning

舞踊やフラメンコ、ヨガ、演劇なども含まれていた点で画期的だったが、とりわけケースマイケルにとって、リズム論の授業を担当していた音楽家フェルナン・シレンとの出会いはひととき重要なものだった。というのも、ケースマイケルの創作において、音と動きの関係の探求は常に重要な位置を占め



ており、その一貫した姿勢はこの時期にシレンと出会いによって養われたと考えられるからである。

その後、ケースマイケルは、学びの場をブリュッセルから新天地ニューヨークに移す。ブリュッセルを出発する時、荷物の中にはステューヴ・ライヒの『ヴァイオリン・フェイズ』のテープがあった。シンプルなフレーズだが、それが反復し多層的に展開していくライヒの音楽は、リズムの構造分析を学んだケースマイケルにとっては解釈しがたい音楽だったに違いない。ニューヨークに滞在中に、早速ケースマイケルはその音楽に合わせて後の『ファーズ』の一部となるソロ作品を創作し、発表した。ライヒのアンサンブルメンバーとの出会いや、ニューヨーク公演から手応えを得たケースマイケルは、ベルギーに帰国後、ムードラの同窓生だったミシェル・アンヌ・ドゥ・メイと共にさらにライヒの3つの楽曲に振り付け、『ファーズ』として発表した。緻密で幾何学的な身体動作の美しさを見せると同時に、音楽の原初的なリズムの快楽に身を委ねさせるこの作品は、現在でも再演され続けている不朽の名作である。

動きと音の関係の深化

以来、ケースマイケルの音と動きの関係の探求は現在も続く。今回、日本初公演となる『時の渦』(作曲ジェラルド・グリゼー、初演2013年)は、ケースマイケルがスペクトル楽派の作曲家であるグリゼーの同名の楽曲に振り付けた新境地に挑む作品である。スペクトル楽派は、音楽を音波として捉え、音響分析を作曲手法として取り入れることで知られ、その音楽からは私たちが通常慣れ親しんでいる明瞭なリズムやハーモニーは排されている。こうした実験的な音楽に振り付けること自体、極めて挑戦的な試みであることは言うまでもない。6人の演奏家及び指揮者と7人のダンサーの実演が織りなす音と動きの多層的な関係が一つの見どころとなるだろう。

この二つのケースマイケルの作品は、音楽の力を身体によって具現化すると同時に、音楽に支配されることのない自律したダンスの新しい次元をも切り拓いている。そこで展開される動きと音は、私たちの時空間の認識を揺さぶり、「見ること」と「聴くこと」の新たな経験を生みだしてくれるはずである。

文:越智雄磨

「ファーズ—Fase」

詳細はP11へ

5月2日(火) 19:30 / 3日(水・祝) 15:00 プレイハウス

振付:アンヌ・テレサ・ドゥ・ケースマイケル

出演:アンヌ・テレサ・ドゥ・ケースマイケル / ターレ・ドルヴェン

音楽:ステューヴ・ライヒ(録音)

「時の渦—Vortex Temporum(ヴォルテックス・テンポラム)」(日本初演)

5月5日(金・祝) 17:00 / 6日(土)・7日(日) 15:00 プレイハウス

振付:アンヌ・テレサ・ドゥ・ケースマイケル

出演:ローザス・ダンサーズ

音楽:ジェラルド・グリゼー「時の渦(ヴォルテックス・テンポラム)」

演奏:アンサンブル・イクトウス(生演奏)